

建設業は3期連続改善傾向。その他3業種は一進一退である。

山口商工会議所では、管内中小企業98社を対象に景況調査を実施し、このほど令和6年1月～3月期実績と令和6年4月～6月期見通しについての調査結果(回答数84社、回答率85.7%)をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

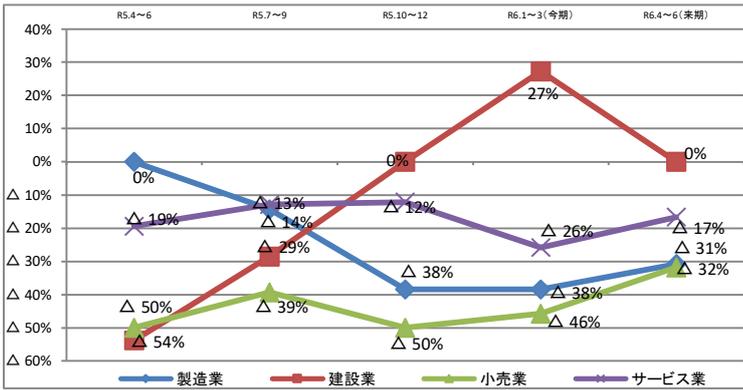
全業種のDI値に見る業況判断動向は前期と変化がなかった。業種別にみると、建設業は0%から27%と大幅に改善、その他3業種は前期同様マイナスで推移しているが、小売業は▲50%から▲46%とわずかに改善した。仕入単価は前年同期に比べて上昇したと感じた割合が、74%から58%と大幅に低下した。ここまで大幅に低下したのは、令和2年4～6月期以来、初めての結果となった。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の14%、来期設備投資を実施予定の企業は19%であった。経営上の問題点については、仕入単価の上昇率が落ち着きを見せ始めているにもかかわらず、建設業以外の3業種で材料等仕入単価の上昇が上位にきていることをみると、仕入単価の価格変動が、経営に大きく影響していることがうかがえる。

◆業況DI値（今期の状況）

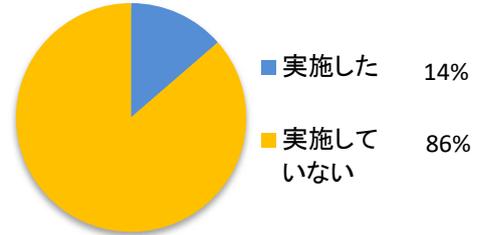
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△ 27%	→	△ 17%	→	△ 25%	→	58%	→	△ 27%	→	△ 7%	→
製造業	△ 38%	→	△ 36%	→	△ 50%	→	71%	→	△ 50%	→	0%	→
建設業	27%	→	27%	→	9%	→	64%	→	0%	→	△ 18%	→
小売業	△ 46%	→	△ 20%	→	△ 28%	→	48%	→	△ 33%	→	△ 5%	→
サービス業	△ 26%	→	△ 19%	→	△ 21%	→	57%	→	△ 20%	→	△ 7%	→

◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）

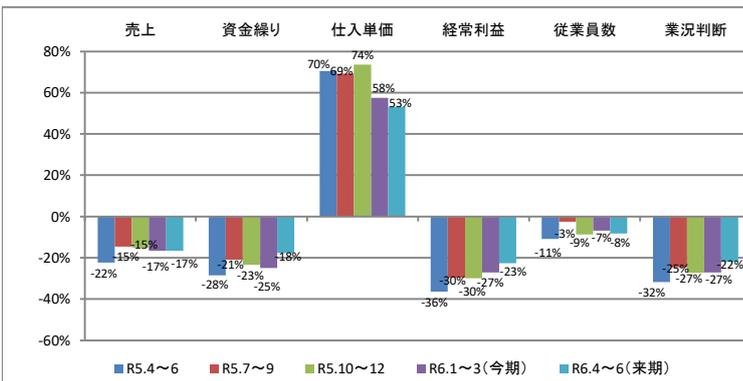


◆新規設備投資（今期実施・来期計画）

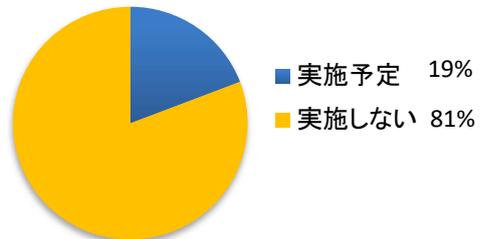
【今期設備投資】



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期設備投資計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	原材料価格の上昇 30.0%	官公需要の停滞 18.2%	仕入単価の上昇 17.2%	人件費以外の経費の増加 16.7%
2位	需要の停滞 16.7%	民間需要の停滞 15.2%	需要の停滞 15.6%	材料等仕入単価の上昇 14.1%
3位	製品ニーズの変化への対応 13.3%	従業員の確保難 12.1%	消費者ニーズの変化への対応 12.5%	利用者ニーズの変化への対応 11.5%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。